

入選

親切で支えられている

大分県 国東市立志成学園

五年 都留 佑哉

ぼくは今、車いすにのっています。だから、まわりの人からたくさん助けてもらいます。そのことについて書こうと思います。

4年生の2学期に、初めて車いすで学校に行きました。行く前は、みんなに、何かされるのではないかと、何か言われるのではないかと、とても不安に思っていました。だけど行ってみたら、みんな以前と同じように接してくれました。ぼくのためにお楽しみ会をしてくれて、クイズをしました。そのクイズはむずかしくて、だれもわかりませんでした。とても楽しくて安心しました。

3学期から、本格的に登校するようになりました。本当だったら2学期のPTAとする予定だった「2分の1成人式」を、先生やお家の人たちが、ぼくもいっしょに参加できるように、3学期のPTAにずらしてくれました。おかげで、みんなといっしょに2分の1成人式をむかえることができました。とてもとても、感謝しています。

5年生になってまもなくして、学校で水ぼうそうがはやってしまいました。免えき力が弱いぼくは、病院の先生からおさまるまで行ってはいけないと言われました。それでも、ずっと欠席のままではいけないので、校長先生や担任の先生が考えてくれて、支援センター「フレンドリー」というところに行けるようにしてくれました。

「フレンドリー」は、バリアフリーではなかったのですが、そこの先生が手作りでスロープを作ってくれて、スムーズに校舎に入れるようになりました。勉強もわかりやすく教えてくれました。とてもありがたいと思いました。

そして、7月に入り、^{かかち}香々地で宿泊体験をしました。先生たちが車いすでも問題なく過ごせるように、たくさん考えてくれました。校長先生が、お風呂に入るときに手伝ってくれました。とちゅうで気分が悪くなったとき、保健の先生がずっとついていてくれました。

おかげで、ぼくは無事に2日間を過ごすことができました。初めて親からはなれて、みんなと一日過ごすのも楽しかったし、自分でいろいろなことができるようになって、少し自信ができました。

車いすで通いはじめて、半年がたちました。最初のときの不安な気持ちはなくなって、今は安心して学校に通えています。友だちがときどき車いすを押してくれるし、いっしょに遊んでいます。そしてぼくには、学校生活をサポートしてくれる支援の先生がついてくれています。支援の先生は、荷物を持ってくれたり、宿題の提出をしてくれたりします。いつも見まもってくれる心強い存在です。

ぼくは、みんなのたくさんの親切で支えられているのだなと感じています。

だからぼくも、だれかを支えたり、助けたり、人の役に立つ人間になりたいと思っています。